

2014年6月24日

2013年度 秋学期 授業アンケート「教員コメント」の「総括」
(各教員の授業アンケートに対するコメントを読んだうえでのFD委員会の総括)

FD委員会

<座学>

1, 随所に工夫を設けようとして授業改善に取り組む様子が見て取れました。教材の改善、対話機会の増加、小テストのタイミングと回数、授業外での学生対応時間の増加、重要ポイント解説の強化など、多岐にわたる授業改善案が出ていました。

2, 板書や誤字などのテクニカルな改善をするとの記述が多くありましたが、授業方法の本質を変化させるような抜本的改善について取り組もうとする記述もありました。同時にいったん確立した授業スタイルを変更するというのは、かなりの準備時間が必要ですが、その時間確保に苦慮しているのではないかと思われる様子も見受けられました。

<演習・実習系科目>

1, 一人一人の学生に向き合って十分な指導時間を取りたいとする記述が目立ちました。またそれが思うようにならないというジレンマも同じく数多く見られました。積極性や出来・不出来が二極化する学生に、如何に対峙すべきかと悩んでいる記述からは、教育者としての真摯さを随所に見て取ることができました。

2, 全般的に恒常的に授業改善をしようとする意欲的なコメントが多く、「挑戦」という言葉を記す教員もいらっしゃいました。どの教員も懸命に学生指導をしているのに、学生に理解してもらえなかったことや、反応の悪さに苦慮していること、また学生への情熱的指導や期待が大きすぎて、逆に受け入れられなかったのではないかなどと、悩む姿が印象的でした。また意欲のない学生に対しての指導に、苦慮するお気持ちが述べられていることも、しばしば見られ、多くの教員が同じような経験と悩みを抱えていると分かりました。

<語学>

1, 授業が進むにつれて、レベルに差が付いていく中での教育方法は、語学教育の永遠の課題のようです。修得に遅れがちな学生がやる気を失わず、もっと学びたいという優れた学生にも対応していくという教育は、結局教員が一人一人の学生に対して丁寧に対峙していくしかないという教育方法であり、そして実際それだけの時間と負荷を、本学の語学教員が割いているのだということがよく分かります。

2, 難しすぎるとは力が萎えるし、簡単すぎるとは力が付かないというバランスの中で、ちょうど良い教材と教育方法を常に考慮している姿が随所に見受けられます。また課題の出し方や日常の過ごし方など、授業以外で如何に外国語に触れるようにするかと苦慮している教員の感想が印象に残りました。それは反復練習をするという意味だけではなく、言語の背景にある文化を学ぶことが必要だとする意味が含まれているようでした。

<総括>

各教員の自己分析はたいへん冷静で、授業改善について積極的でした。真摯に反省して改善案を提案している教員がほとんどで、授業に取り組む意欲が高いと総括します。

授業時間外での教育活動にも意欲的であり、全ての教育活動に対して真摯に臨んでいらっしゃいます。FD委員会はこうした熱心な教育を行っていらっしゃる全ての教員に対して、心から敬意を表します。

授業アンケートとアンケートコメントは、先生方の授業改善にお役に立つと考えております。アンケート実施と授業コメントを行っていない方は、是非次回の実施をお願いいたします。